

# わが国近海に見られる浮遊性巻貝類—IV

## 有殻翼足類(1):

### カメガイ科のウキビシガイ亜科・ウキツツガイ亜科

日本貝類学会名誉会長 奥谷 喬司 (Okutani, Takashi)

連載第I報～III報(うみうし通信88～90号)では異足類を扱ったが、今回からは有殻翼足類(真後鰓目・有殻翼足亜目)を概説する。

カメガイ科 Cavoliniidae のうちウキビシガイ亜科 Clioninae: 殻はほぼ円錐形で殻口は円形から亜三角形或はレンズ型。殻の最大幅は殻口にある。殻口において背殻はひさし状に腹殻を覆うことはない。

ウキツツガイ *Cresies acicula* (Rang, 1828): 殻長 30 mm。殻口は円形で、殻は透明で表面は光沢があり微細な成長線が認められる。原殻は細長い水滴型で後生殻との境界は僅かにくびれる。翼足は横長の方形で前縁に触角葉がある。針状に長い型を典型的な forma *acicula* とし、短小の型を forma *clava* と呼ぶが連続的で亜種の分化はみられない\*。全世界の温熱帯海域に分布し、我が国では黒潮の影響のある海域で見られ、かなり沿岸水にも出現し、時にはシラスに混ざっている。[\*:この仲間で Spoel (1967) 以来多用されている forma は現行の国際動物命名規約(ICZN)第4版(2000)では、1961年以前に亜種より低位のものと断ることなしに、提唱されたものは「亜種」として扱う。しかし、1960年以後に forma や var などをつけて、発表されたものは亜種より低位 infrasubspecific entity と見做すとしている(15.2条及び45.6条)。つまり、命名規約上、適格とは扱われない単位であることを意味する。]

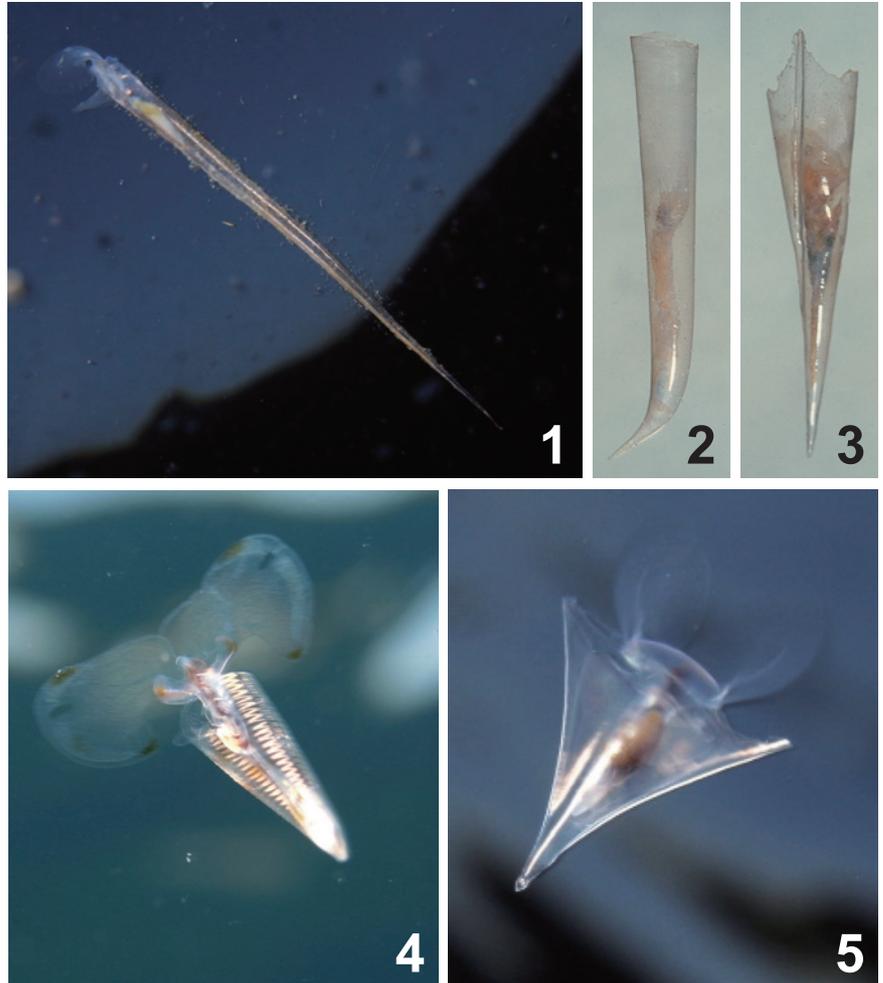
ツメウキツツガイ *Creseis virgula* (Rang, 1828): 6 mm。殻の後端は湾曲し、角笛型。殻の表面には弱い成長線が見られる。原殻は二度くびれるが、ウキツツガイに見られるような明らかな境界線は無い。湾曲の著しいものを典型的な forma *virgula* とし、弱いものを forma *conica* と呼ぶ、大西洋には forma *constricta* という型もあるが、何れも劃然たる区別はしにくく、

且つ水塊による棲み分けも明らかではないので亜種と扱うには情報不足である。前種と共に見られる。

スジウキツツガイ *Styliola subula* (Quoy & Gaimard, 1827): 殻長 13 mm。殻は針型で、原殻との境界は微かにくびれる。殻背面に縦走する1肋があるが、後方で

は左のほうへねじれる。黒潮系水に分布する。

ガラスウキツツガイ *Hyalocyris striata* (Rang, 1828): 殻長 10 mm。殻は薄質透明で円錐形。強い輪肋が規則的にあるほか顕微鏡的な不連続縦線がある。円錐形の原殻は通常残っていないので、殻頂



1. ウキツツガイ *Cresies acicula*  
 2. ツメウキツツガイ *Creseis virgula*  
 3. スジウキツツガイ *Styliola subula*  
 4. ガラスウキツツガイ *Hyalocyris striata*  
 5. ウキビシガイ *Clio pyramidata*

は鈍端で終わる。殻口は卵円形。翼足は亜楕円形。東太平洋を除く全世界の温熱帯海域に分布し、我が国の黒潮水の影響のある海域で見られる。

**ウキビシガイ *Clio pyramidata* Linnaeus, 1767**：殻長 20 mm。殻は菱形。透明でガラス様。腹殻はほぼ平らであるが、背殻は中央に縦走する稜で盛り上がり、殻口は亜三角形。後方に向かって細まり、水滴型の原殻の間は弱くくびれた境界が認められる。本種も他種同様多くの型に分けられている (Spoel 1967, 1976 によれば 8 型) が、殻幅がやや狭く原殻の丸いのが典型的 *forma pyramidata* とされ、殻が側方に張り出し、原殻がやや細長い型を *forma lanceolata* の 2 型は明瞭である。全世界の温熱帯海域から南北の極前線付近まで分布し、我が国の沿岸でも極めて普通に見られる。

ウキビシガイでは屢々貝殻に対して軟体部が異常に小さい個体が見られる。これについて Spoel (1962, 1973, 1979) は軟体動物で唯一見られる横分裂 (Strobilation) の結果起る「異常期 (Abberant

stage)」であるとした。これは、環境の悪い時に起るとされていたが、Iersel & Spoel (1986) はチロキシンに漬けると起ったという。Spoel は分裂した前体部は無殻で泳ぎ出すというが、Lalli & Gilmer (1989) は野外でそのような無殻のウキビシガイに出会う事は無いので、余程の短時間で起るのではないか、この現象は未だに謎であると述べている。

**ダイオウウキビシ *Clio recurva* (Children, 1823)**：殻長 30 mm。この属では最大種。殻は亜三角形で、時には淡い桃色をしている。背腹面とも成長線に沿った細い肋が規則的に並ぶ。背面には縦走する低い稜が走り、中央のものが最も狭い。また、側縁には殻口から後方に向かって狭い溝が走る。原殻は球形で先端が尖る。翼足は木の葉状で大きく、触角葉や切れ込みは無い。我が国近海では黒潮水域から混合水帯まで分布する。亜表層性で、殻表には多くのハイドロゾア (*Canpaniclavaclyonis*) のコロニーを付けているのが普通。*C. balantium* (Rang, 1828) は異名。

**フカミウキビシ *Clio chaptali* Gray, 1850**：殻長 25 mm。殻表は淡い桃色で弱い成長細肋がある。縦走肋も低く中央のものが最も幅広い。殻の後方は緩く背方に反る。原殻は球形であるが、先端は尖らない。中深層に棲むので稀産。

**トゲウキビシ *Clio cuspidata* (Bosc, 1802)**：殻長 17 mm。背面から見ると背中线に沿って殻口背縁から突出する庇状の突起と背側面の長い棘状突起のため三叉状に見える。背面はその他強い成長肋がある。殻後方は強く背方に反り、原殻は球状で後端に曲がった 1 棘を持つ。背殻はあまり膨らまないが、前縁は突出する。背棘が発達してない未成殻は、三角形。黒潮系水の影響のある水域。稀産。

**ウキツツガイ亜科 Cuvierininae**：殻は瓶型。殻口はひしゃげた亜三角形。円錐型の原殻は大抵失われていて、しばしば一部が殻底に襟状に残っている。

**ウキツツガイ *Cuvierina columnella* (Rang, 1827)**：殻長 10 mm。最大幅は殻頂に近いところにあるが、中程が膨れずんぐりした型をツボウキツツ *forma urceoralis* と呼ぶ。黒潮系外洋水。海浜に打ち上げられているのも見つかる。本種 1 種のみ知られる。

引用文献 (第 I-III 報に引用したものを除く)

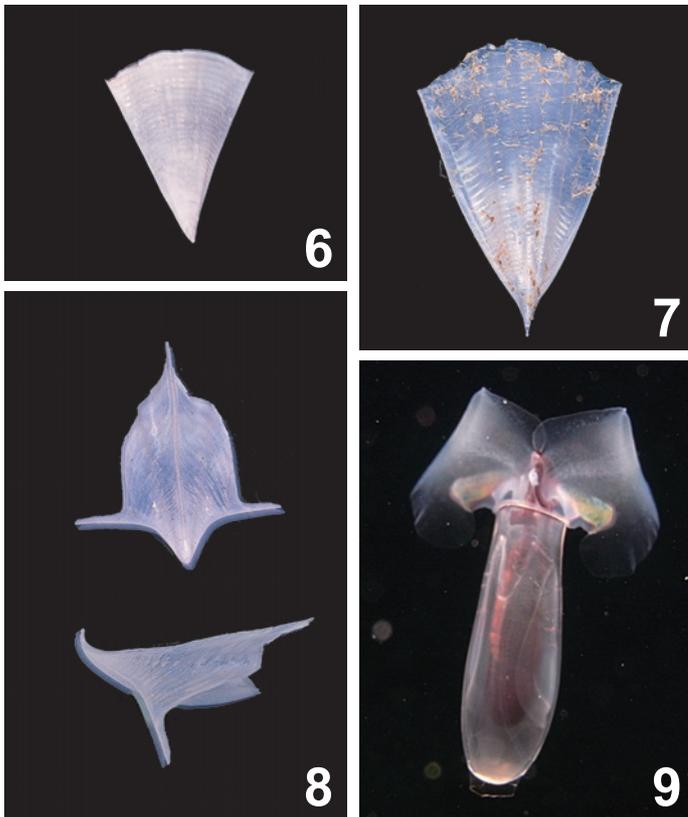
Iersel, Pafort-van & Spoel, S. van der. 1986. Schizogamy in the planktonic opisthobranch *Clio* —A previously undescribed mode of reproduction in the Mollusca, *International Journal of Invertebrate Reproduction and Development*, 10: 43-50.

Spoel, S. van der. 1962. Abberant forms of the genus *Clio* Linnaeus, 1767, with a review of the genus *Proclio* Hubendick, 1951 (Gastropoda, Pteropoda). *Beaufortia* 9: 173-200.

Spoel, S. van der. 1967. *Euthecosomata, a Group with Remarkable Developmental Stages (Gastropoda, Pteropoda)*. J. Noorduijn en Zoon N.V., Gorinchem, 375 pp.

Spoel, S. van der. 1973. Strobilation in a mollusk: the development of aberrant stages in *Clio pyramidata* Linnaeus, 1767 (Gastropoda, Pteropoda). *Bijdr. Dierk.* 43: 202-214.

Spoel, S. van der. 1979. Strobilation in a pteropod (Gastropoda: Opisthobranchia). *Malacologia* 18: 27-30.



6. フカミウキビシ *Clio chaptali*  
 7. ダイオウウキビシ *Clio recurva*  
 8. トゲウキビシ *Clio cuspidata*  
 9. ウキツツ *Cuvierina columnella*  
 (1, 4, 5, 9 撮影：西巻唯史)